

【食道がんレジメン】

レジメン名	コメント	催吐リスク	投与期間	コース期間	抗がん剤
1 食道-外006 ; FP+RT療法		高度催吐性リスク	4	28	シスプラチン点滴静注:75mg/m ² Day1 フルオロウラシル注:1000mg/m ² Day1 Day2 Day3 Day4
2 食道-外015;mDCF療法		高度催吐性リスク	5	21	ドセタキセル点滴静注:60mg/m ² Day1 シスプラチン点滴静注:6mg/m ² Day1-5 フルオロウラシル注:350mg/m ² Day1-5
3 食道-外095;DTX療法		軽度催吐性リスク	1	21	ドセタキセル点滴静注:70mg/m ² Day1
4 食道-外096;DTX療法(7#コ-#禁用)		軽度催吐性リスク	1	21	キリン注(ドセタキセル):70mg/m ² Day1
5 食道-外114 ; FP(5FU800+CDDP80)療法	※術前は21日毎2コース//術後、 切除不能・再発は28日毎が目安	高度催吐性リスク	5	21	フルオロウラシル注:800mg/m ² Day1-5 シスプラチン点滴静注:80mg/m ² Day1
6 食道-外121;weeklyPTX療法		軽度催吐性リスク	36	49	パクリタール注:100mg/m ² Day1,8,15,22,29,36
7 食道-外134 ; DCF(DTX70 + CDDP70 + 5FU750)療法	※術前は21日毎2コース//術後、 切除不能・再発は28日毎が目安	高度催吐性リスク	5	21	ドセタキセル点滴静注:70mg/m ² Day1 フルオロウラシル注:750mg/m ² Day1-5 シスプラチン点滴静注:70mg/m ² Day1
8 食道-外147 ; ペムマ + FP(5FU800+CDDP80)療法	※一次治療(最大6コース)	高度催吐性リスク	5	21	キリン点注:200mg Day1 フルオロウラシル注:800mg/m ² Day1-5 シスプラチン点滴静注:80mg/m ² Day1
9 食道-外148 ; ペムマ + 5FU(800)療法	※条件付きレジメン (Pembro + FP療法後の維持療法)	軽度催吐性リスク	5	21	キリン点注:200mg Day1 フルオロウラシル注:800mg/m ² Day1-5
10 食道-外149; 【術後補助】ニボルマブ療法	※術後補助療法(投与期間は 12ヵ月間まで)	最小度催吐性リスク	1	14	オプジーボ点注:240mg Day1
11 食道-外153 ; ニボルマブ + FP(5FU800+CDDP80)療法		高度催吐性リスク	15	28	オプジーボ点滴静注:240mg Day1,15 フルオロウラシル注:800mg/m ² Day1-5 シスプラチン点滴静注:80mg/m ² Day1
12 食道-外156 ; ニボルマブ + 5FU(800)療法	※条件付きレジメン (Nivo + FP療法 有害事象時の 代替療法)	軽度催吐性リスク	15	28	オプジーボ点滴静注:240mg Day1,15 フルオロウラシル注:800mg/m ² Day1-5